

令和4年度 岡山県立倉敷工業高等学校 学校評価書

岡山県立倉敷工業高等学校
校長 安藤 正道

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 特長と分析 (主なものを紹介)

【人間力の向上】

コロナ禍での行事のあり方の再検討を行い、感染防止対策を講じながら実施可能な行事を精選し、その内容や構成等を慎重に検討しながら実施した。倉工祭体育の部は3年ぶりに倉敷総合運動公園陸上競技場で開催できた。軟式野球部が22年ぶりの全国ベスト4となった。

【学力の充実】

「Chromebook等のICT活用に関する研究」プロジェクトが中心となり、教員のスキルアップをサポート。その成果を活かし、一人一台端末を活用した分かりやすい授業を実践(動画による解説、Formsを利用した小テストやアンケートの実施や集計結果の即時提示、Jamboardを活用した実技指導における添削指導等)。SEH(R1~R3)での取組の継承。

【キャリア教育】

就職希望者214名、進学希望者83名、就職内定率100%を達成。県立大学へ2名合格。自己評価アンケート「3年間を通して計画的に行われている」が8.1ポイント(昨年比-0.1)。工業化学科3年生が難関の水質関係第三種公害防止管理者に合格。テキスタイル工学科3年生が危険物甲種に合格。

【地域連携】

老松ふれあい夏祭り及び老松小ふれあいフェスタに参加、倉工ルナリエで地域に感謝、SOJA イルミネーションへ出展、かぶ部の高梁川河川敷清掃。学校HPへのアクセス数は5か月連続第1位

【ものづくり】

溶接部門、電気工事部門で中国大会出場、セパルカー大会、マイコンカーにも出場。スマート専門高校で整備された五軸マシニングセンタ、レーザー加工機、GCMS等の最新機器の活用。ブルキナファソ・ジグマ王女の県知事表敬訪問時の贈り物にテキスタイル工学科作品が採用

【校内組織の活性化と人材育成】

校内組織の再編による業務の効率化と相互扶助の促進、業務内容の見直し。時機に応じたコンプライアンス研修の実施。OJTによる人材育成。

2 学校関係者評価委員名 (五十音順、敬称略)

- 風早正明 (本校PTA 会長)
- 滝澤 昇 (岡山理科大学工学部 教授)
- 三宅 香 (本校同窓会 副会長)
- 向谷 隆 (岡山ポロケアセンター(株) 代表取締役)
- 山本邦彦 (老松学区コミュニティ協議会理事・副事務局長)

3 学校関係者評価 (主なものを紹介)

- ・この一年は教育活動が活発になった。生徒の地域での活動、HPでの発信とツイッターとの連動等、広報においても良い取組ができています。
- ・SDGsはエコなどの特定分野だけに偏りがちなので、幅広く理解を深めることを望む。
- ・大学では、実業高校出身の学生を増やしたいという思いが強い。進学への指導も期待する。
- ・学校での事故や通学中の事故の発生状況を踏まえ、安全教育の一層工夫した取り組みを。
- ・地域との連携が良くできており、活性化に貢献している。自ら動ける生徒が育っている。

4 来年度の重点取り組み (学校評価を踏まえた今後の方向性)

◎重点目標；「倉工スタンダード」による「人づくり」～地域から信頼され愛される人に～

- ・【人間力の向上】…学校行事の精選と充実、豊かな人間性の育成、リーダーの育成等
- ・【学力の充実】…ICTの有効活用、興味を持てる・わかる授業を実践、SDGs、PBL視点の学び等
- ・【キャリア教育】…進路(就職・大学進学)に応じた指導の充実、企業・学校研究の充実等
- ・【地域連携】…地域や社会と連携した学びの実践、HP・ツイッターでの情報発信等
- ・【ものづくり】…最先端のデジタル化対応装置の活用、課題研究の魅力づくり、安全教育等
- ・【校内組織の活性化と人材育成】…相互扶助、ICT機器の有効活用による業務効率化、OJT等